さとうきび通信

平成２７年：冬号

発行日：平成27年1月5日

生和糖業株式会社
発行・編集 ： 原料部原料課原料係

	10 月				11 月			
	最高気温	最低気温	平均気温	雨量(mm)	最高気温	最低気温	平均気温	雨量(mm)
本 年	27.7	21.7	24.4	180.5	24.4	19.0	21.5	76.0
平 年	27.6	22.2	24.8	181.0	22.9	17.5	20.2	167.7
平年との差	＋ 0.1	－ 0.5	－ 0.4	－0.5	＋ 1.5	＋ 1.5	＋ 1.3	－91.7

年 頭 の ご 挨 拶

生和糖業株式会社
代表取締役社長 平田 勝造
（昭和25年生）

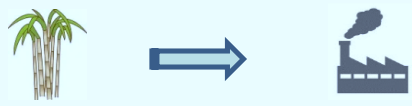
新年 明けましておめでとうございます。
26/27年のさとうきび収穫量予想は、78,000ﾄﾝを見込んでおりますが、台風の影響から糖度が大きく落ち込み、その後も新葉の再生に時間がかかり、糖度上昇が期待するほど進まないため、年明け１月６日より開始することになりました。
２年続いた不作から昨年は８万ﾄﾝとほぼ平年作まで回復し、本年も８万ﾄﾝ超えが期待されましたが、10月初めの連続した台風により島の風景が一変しました。収穫量だけでなく品質も大変心配されたところであり、その心配は今も続いておりますが、杞憂となることを願うばかりであります。
昨年の操業では、特に終了直前に収穫網の回転がスムーズに行われず全量引取りが行われるのか心配をおかけしましたし、工場ヤードには多くのさとうきびが積まれ糖度劣化が進みました。さとうきびの集荷に関しては、農協と当社間で集荷委託契約を結んでいます。その契約の
①工場操業処理量に合わせた数量を搬入する。
②刈取り後36時間内の新鮮キビを搬入する。
という委託契約の主要事項が徹底されず、全量引取りの心配だけでなく、工場ヤード大量残は工場歩留の低下に繋がりましたし、36時間以上の圃場刈置きは糖度の低下を招き、農家の手取り減に繋がった可能性もありました。
昨年の経験から同じ事態の防止に向け、集荷委託契約の趣旨に則り農協と当社で協議を重ねてきました。その協議結果に沿って今期の集荷が行われますが、農協の指導の下、農家・ハーベスタ組合が一体となって集荷業務が円滑に進むことを期待するところであります。
さとうきび産業は、植付～管理～刈取～搬送～圧搾まで一連の作業が有機的に結びついていないと維持・発展はできません。当然のことながら製糖工場でトラブルが発生すれば、刈置きびが発生し糖度低下を招きますし、圃場管理が徹底されなければ雑草等の夾雑物によって工場歩留が低下します。各部署が有機的に結びついているため、部分最適でなく全体最適が求められます。全体最適が維持されることで、喜界島のさとうきび産業の発展が可能となります。
毎年のように台風・旱魃・害虫に悩まされます。しかしながら自然災害のもとでもさとうきびは壊滅することなく相応の収穫量が確保できます。さとうきびは離島になくてはならない作物であり、この作物を伸ばすことは喜界島の発展と背中合わせです。
私ども製糖工場は、100％とはいかないまでもトラブルをおこさないよう努力していく所存です。皆様においても農協の指示を守るなかそれぞれの守備範囲について努力していただき、共に喜界島のさとうきび発展に向け進みたく思うところであります。

さとうきび生産振興大会 開催される

去る12月2日、自然休養管理センターで糖業関係者約150名の出席の下、開催されました。
喜界町糖業振興会の川島会長、大島支庁農林水産部農政普及課の奥 真隆氏の挨拶があり、続いて特殊病害虫係研究専門委員の中村浩昭氏の昨今における「さとうきび病害虫対策」、喜界事務所農政普及係技術主幹の三角洋造氏の「緑肥を栽培してみませんか」の講演があり、増産のポイントは1.土づくり2.病害虫対策3.適期管理であることを話されました。
引き続き当社の平田社長より今期の操業計画や集荷時の協力要請がありました。その中で今期は夏期の干ばつもなく順調な生育であったが、10月の相次ぐ台風の影響で品質が劣化してBxが11月末で平年より約3度弱低く止むを得ず年明け操業になったこと、又新鮮原料の供給、残量調査の精度を上げて欲しいなどの要請がありました。
その後質疑応答があり、「農業共済」の加入推進について説明があり閉会しました。

今期の操業計画

きび処理見込　78,000ｔ
搬入圧搾開始　1月 6日



◆◆◆ 年別収穫面積・生産量の推移 ◆◆◆

作型 / 各年	夏 植			秋 植			春 植			株 出			合 計		
	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量	面積	単収	生産量
	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t	(a)	(kg/10a)	t
H25/26年	27,358	7,598	20,785	13,495	7,364	9,937	13,240	5,744	7,605	74,005	5,645	41,778	128,098	6,253	80,105
H24/25年	27,619	5,724	15,809	11,529	5,468	6,303	13,836	3,737	5,171	72,881	4,161	30,324	125,865	4,577	57,607
前年との差	－261	＋1,874	＋4,976	＋1,966	＋1,896	＋3,634	－596	＋2,007	＋2,434	＋1,124	＋1,484	＋11,454	＋2,233	＋1,676	＋22,498
H23/24年	36,609	5,462	19,996	9,435	4,908	4,630	14,543	4,443	6,462	65,435	4,057	26,545	126,022	4,573	57,633

◆◆◆ さとうきびの買入糖度・買入価格・トラッシュ率・工場歩留の推移 ◆◆◆

項目 / 各年	買入糖度（％）	糖度帯（％）			平均買入価格（交付金込）	対前年比（％）	トラッシュ率（％）	工場歩留（％）
		基準以下	基準内	基準以上				
H25/26年	14.37	9.5	38.3	52.2	22,191	104.1	9.20	12.58
H24/25年	13.98	21.9	43.7	34.4	21,327	98.7	8.96	12.51
H23/24年	13.93	21.1	49.0	29.9	21,615	97.9	12.48	11.93

除草剤について

除草剤には選択性と非選択性の2種類があります。効果よく効率的に使用するために注意事項を守りましょう！

選択性除草剤
作物には影響を与えないで雑草のみを枯らすタイプ

→ **主な除草剤**
①アージラン液剤②センコル水和剤③シャドー水和剤④2-4D

①

②

③

④

非選択性除草剤
雑草だけでなく作物まで枯らすタイプの除草剤

→ **主な除草剤**
①ラウンドアップ②サンフーロン
③草枯らし④プリグロックスL

①

②

③

④

①ホースを水で十分に洗浄する。
②次回選択制除草剤の使用時には最初の１分間くらいは畦畔に散布する。
（非選択性除草剤が残留している場合がある。）

株出栽培

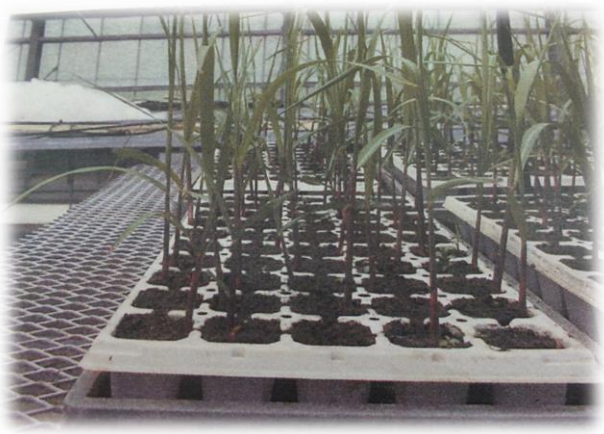
メリット
1 夏植（1年半）と比較して栽培期間が短い（収穫した翌年にはまた収穫が可能）
2 耕耘、採苗、植付などの作業が不要で労力が低減される
3 低コストである（施肥等）

収穫機械による株の引抜きや損傷により生じた欠株に一芽苗を補植することにより
茎数を確保でき収量がアップし、次年度への増収にもつながる

限られた面積の中でより単収を上げるには欠株補植が重要となります。補植により茎数を確保し、収量アップにつなげましょう！

喜界町さとうきび生産対策協議会では3月頃に補植用の一芽苗を有償にて販売する予定です。

～ 一芽苗補植の流れ　～



育苗
（営農支援センター）
⇩
申込受付（2月）
⇩
販売（３月）

⇩
補植（3月）

補植　5ヶ月後

私のキビ作り

**小野津
小田満義 さん**

今年の町糖業振興会総会でハーベスタ受諾組合部門で見事トラッシュ低減努力賞で第一位に輝いた小田さんにお話を伺いました。
　平成21年にハーベスタを導入し、収穫作業や管理作業を3名で行い、夏季の植付時は早朝4時頃畑へ行き午前11時、午後は3時～6時頃まで農作業をしておられるそうです。
　「面積ばかり増やしてもサトウキビが草に食われては意味がないから管理作業は徹底する。だから、株出の欠株も無く、補植が要らない。春植もチンチバック処理に2回程薬剤を散布した」とのことで、圃場の雑草には特に気をつけているそうです。又夏植の前にゴマ栽培もしており、「今年のゴマは収穫目前の台風でかなり減量し、非常に残念だった。すぐに耕起してキビの秋植をして、約2町6反程10月20日迄に終えた」とお話がありました。今後も収穫面積を拡大し、製糖会社も農家もお互いが協力して儲かるようにしなけりゃ～と、勤勉で大らかな方で、きび栽培に前向きに取り組んでおられます。
最後に今年も順調な生育で台風の影響さえなかったら豊作は間違いなかったのに・・・・と残念がっていました。

2度目の取材に拘らず忙しい農作業の折に対応していただきました。　実年齢よりもとても若々しく、きび栽培の熱い思いを楽しそうに語って下さいました。ありがとうございました。

編集後記
地球温暖化に伴いかつての気象常識が変わりつつある。去年の夏は台風の上陸や接近で局地的な大雨の影響で日本列島の災害が相次いだ。宅地開発等で自然形状が変わり、それが大雨により土石流の発生、河川を氾濫させ田畑や住居への浸水と生活環境に影響を及ぼした。★農業を営む者は気象条件で収穫が左右されるから、動向には気になる。我が島も然り、収穫前のゴマは台風の影響で壊滅、園芸用ハウス等も損害があったと聞く。多少の被害はあっても収量があり、確実な収益に繋がるさとうきびは台風常襲地域には欠かせない作目だ。★火山爆発、地震、豪雨による水害や又かつてない深海魚の出現等の異常事態に見舞われる昨今、防災意識は高く持ちたい。